

いつも当社システムをご利用いただきありがとうございます。
今月分の請求書をご査収の程よろしくお願い申し上げます。

いつも大変お世話になりありがとうございます。

9月はずっと雨…残暑がないまま秋がやってきました。東京都心は9月としては史上初の全日降水を観測したそうです。皆さまはいかがお過ごしでしょうか。

Instagram に投稿されていた「巨石」に導かれ、雨の合間の曇り空ではありましたが、シルバーウィークに兵庫県高砂市へ行ってきました。

電車を乗り継いで2時間、「宝殿駅」で下車しました。出かける時は雨の心配をしていたのですが、おかげさまで青空がひろがる「巨石日和」になりました。駅から一本道を30分ほど歩くと、道の先にはこんもりした丘「宝殿山」とむき出しの岩肌がみえました。この辺りは約1,700年前の古墳時代から竜山石の採石場で、今でも採石が行われています。

本日の目的は、宝殿山の中腹にある「生石（おうしこ）神社」の日本三奇の一つである巨大な石造物「石の宝殿」。江戸時代の医者、橘南谿が記した書物の中で、“3つの奇跡”と紹介されたことから「日本三奇」と呼ばれているそうです。

急な階段をのぼり、拝殿に入ると奥には写真で見た巨石が！御神体の「石の宝殿」は、水に浮かんでいるように見える神秘的な姿をしています。

覗き込むと、石の中央部は下の岩盤につながっているのが見えたのですが、この隙間に潜り込んで掘り進めるのも至難の業ではないかとおもいます。また、溜まっている水はどんな干ばつの時にも涸れないといわれているそうです。

巨石の周りを1周ぐるっとまわると、後ろ側には大きな突起がでていました。この形や、竜山石が奈良の主要な巨大古墳で利用されていることから、古墳の家型石棺として切り出される途中で放棄したのではないかといわれています。ほかにも様々な説があるようですが、奈良時代の『播磨国風土記』には

「原の南に作石（人工的に作られた石）がある。形は家のように、長さ二丈（約6m）、幅一丈五尺（約4.5m）、高さもそれと同じくらいである。名を『大石』という。言い伝えによると、聖徳太子の御世に、弓削大連（＝物部守屋）が作った石である。」

と書かれていて、すでに1300年前には「誰が何のために作ったのか」が分からなくなっていたということです。

岩肌を削った階段をのぼると、巨石を上から見渡すことができます。上から見るとさらに圧巻。下へ下へと垂直に掘り下げて、巨石をくりぬこうとしていたことがわかります。巨石の壁面は垂直に真っすぐ平らに整えられていて、これを手作業で掘り進めていくなんてどれほどの時間がかかったことでしょう。

「水に浮かんだ神秘の巨石」は、人間業とは思えないスケールと、誰が何のために作ったのかわからない謎めいた存在として、古代人のみならず今もなお人々を惹きつけています。古代の神秘とロマンを感じます。

朝晩は寒いくらいになってきました。風邪などひかれませんように、皆さまもどうぞ健やかにお過ごしくださいませ。



水に浮かぶ神秘の巨石「石の宝殿」



上からのぞき込むこうなっています。



採石場と街並みが一望できました。

今月も最後までお読みいただき
ありがとうございました。
来月もよろしくお願いいたします。